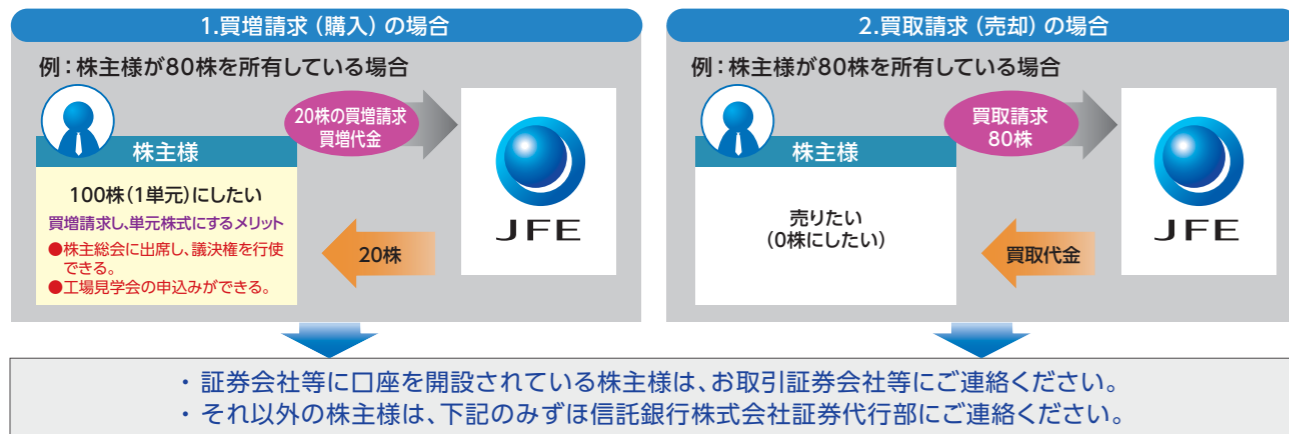


株式のお手続きに関するお知らせ

単元未満株式の買増・買取制度について

当社の株式は1単元が100株となっており、単元未満株式(1~99株)については市場で売買はできませんが、当社に対して100株(1単元)となるよう買増請求(購入)することができます。または単元未満株式を当社に対して買取請求(売却)することができます。

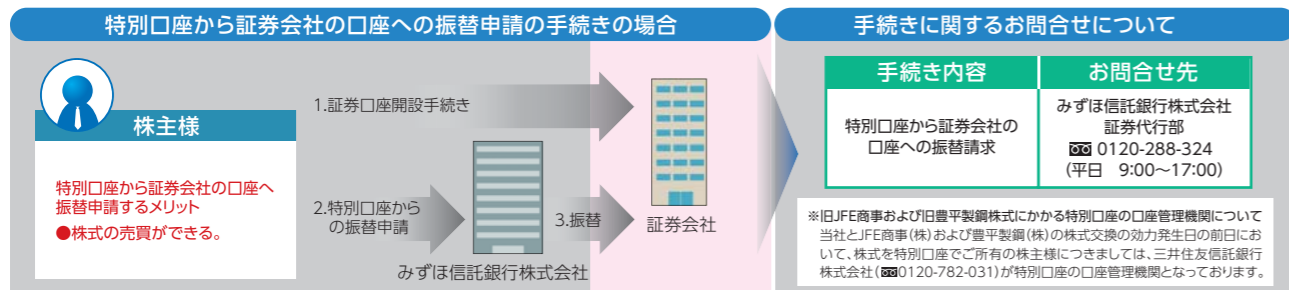


みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-288-324 (平日9:00~17:00)

特別口座から証券会社等の口座への振替について

特別口座に記録されている株式については、特別口座のままでは売買できません(単元未満株式の当社への買増・買取請求を除く)ので、証券会社に取引口座を開設して、開設された口座に株式を移し替える手続き(振替申請)をお勧めします。

※現在株券をお持ちの株主様や、以前株券を持っていたが現在所在が分からなくなった株主様は、特別口座で管理されている可能性がありますので、当社特別口座管理機関みずほ信託銀行株式会社にお問合せください。



株主の皆様へ

第12期中間 (平成25年4月1日~平成25年9月30日)

JFE Group



JFE

JFEグループは、常に世界最高の技術をもって社会に貢献します。



平成25年度上半期の決算の概要や今後のJFEグループの取り組みについて、お答えします。

代表取締役社長 (CEO) **馬田 一**

Q1 まず初めに平成25年度上半期の業績の概要を教えてください。

A1 わが国経済は、輸出環境の改善や堅調な内需を背景にゆるやかに回復しつつあるものの、世界経済をめぐる不確実性は引き続きわが国の景気の下振れリスクとなっております。

そのような状況のもと、各事業ともに収益改善に取り組んだ結果、グループ連結での上半期の業績は、経常利益は743億円、純利益は477億円となりました。

こうした上半期の収益状況を受けまして、中間配当につきましては、配当性向25%を基本として実施するという方針のもと、1株当たり20円とさせていただきます。

Q2 平成25年度の業績見通しはいかがですか。

A2 平成25年度の連結業績は、売上高3兆7,000億円、経常利益は1,700億円、純利益は950億円と、前期に比べ増収・増益となる見通しです。

鉄鋼事業では、国内の販売環境は円高修正の定着による国内産業の受注環境改善、緊急経済対策に伴う公共投資の増加等、概ね堅調に回復しておりますが、海外の販売環境は、新興・途上国での景気減速や中国での慢性的な供給過剰等、厳しい状況が継続すると想定しております。

このような状況のもと、高収益商品の拡販やコスト競争力改善への取り組み等により収益確保に努めており、経常利益は1,300億円となる見通しです。

エンジニアリング事業は引き続き収益改善をきめ細かく進め、135億円の経常利益、商社事業は215億円の経常利益を計上する見通しです。

Q3 JFEグループの取り組みについて教えてください。

A3 JFEスチール(株)では、足元の環境下でも確実に収益をあげられるよう、引き続きコスト競争力の向上を図るとともに、国内の製造基

盤整備を推進することにより、生産効率を高めてまいります。

また、東南アジアを中心とした海外の成長市場においては、製造・販売拠点の拡充や、新たなパートナーシップの構築を進めております。需要拡大が見込める自動車用鋼板分野においては供給体制の整備を進めており、タイに続き、平成28年3月の稼働に向けて、インドネシアで自動車用溶融亜鉛めっきラインの建設を決定いたしました。

JFEエンジニアリング(株)では、環境・エネルギー分野を中心に積極的な事業展開を図っております。本年8月に津市でメガソーラー発電所を稼働し、太陽光発電事業に参入いたしました。また、10月には川崎市に建設する国内最大級のバイオマス発電プラントを受注しております。

JFE商事(株)では、海外における鋼材加工体制の強化を図っており、このたびベトナムおよびインドネシアにおいて拠点の新設・増強を決定いたしました。

株主の皆様へ一言お願いします

JFEグループは、引き続き企業としての持続的成長を図り、すべてのステークホルダーの皆様にとっての企業価値最大化に努めてまいります。

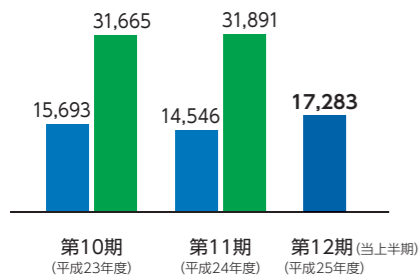
株主の皆様には、今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

■ 上半期 ■ 通期

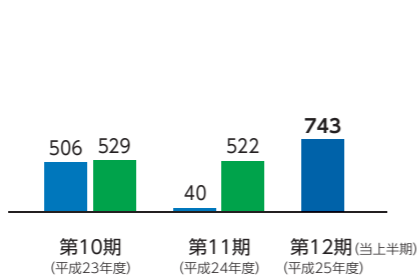
売上高

(単位:億円)



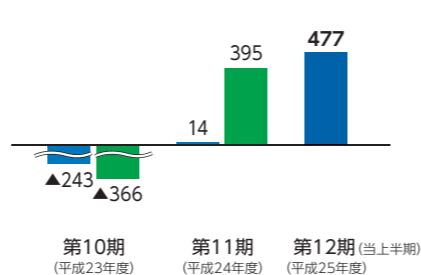
経常利益

(単位:億円)



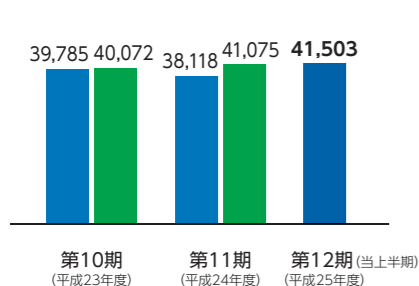
純利益

(単位:億円)



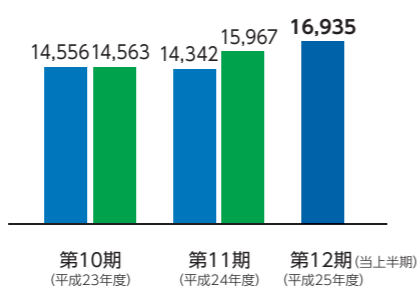
総資産

(単位:億円)



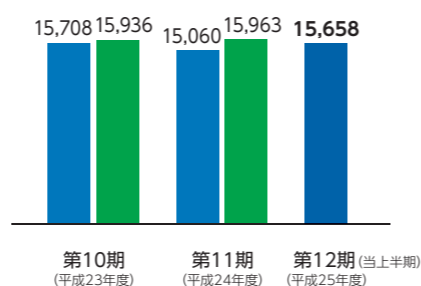
純資産

(単位:億円)



借入金・社債等残高

(単位:億円)



財務指標(通期見直し)

ROS ^{※1}	ROA ^{※2}	自己資本比率 ^{※当上半期実績}	D/Eレシオ(格付けベース) ^{※3}
4.6%	4.5%	39.8%	68.9%

※1 ROS=経常利益/売上高

※2 ROA=(経常利益+支払利息)/総資産

※3 D/Eレシオ=借入金・社債等残高/自己資本、格付けベース:格付評価上資本性を併せ持つ負債(3,000億円)について、格付機関による評価により、75%を資本とみなした場合

事業セグメント別情報(平成25年9月30日現在)

鉄鋼事業

<当上半期の業績>

粗鋼生産量	1,579万t
売上高	1兆2,949億円
経常利益	559億円



JFEスチール株式会社

代表者 代表取締役社長 林田 英治
 従業員数 42,695名*連結
 事業内容 各種鉄鋼製品、鋼材加工製品、原材料等の製造・販売、ならびに運輸業および設備保全・工事等の周辺事業
 生産拠点 東日本製鉄所(千葉地区・京浜地区)
 西日本製鉄所(倉敷地区・福山地区)
 知多製造所

エンジニアリング事業

<当上半期の業績>

売上高	1,072億円
経常利益	21億円



JFEエンジニアリング株式会社

代表者 代表取締役社長 岸本 純幸
 従業員数 7,480名*連結
 事業内容 エネルギー、都市環境、リサイクル、鋼構造、産業機械等に関するエンジニアリング事業
 生産拠点 鶴見製作所/津製作所

商社事業

<当上半期の業績>

売上高	8,558億円
経常利益	104億円



JFE商事株式会社

代表者 代表取締役社長 矢島 勉
 従業員数 6,068名*連結
 事業内容 鉄鋼製品、製鉄原材料、非鉄金属製品、食品等の仕入、加工および販売

Steel business

鉄鋼事業

TOPICS 01

インドネシアで自動車用溶融亜鉛めっきラインの建設を決定

JFEスチール(株)は、インドネシア初の自動車用溶融亜鉛めっきラインを建設することを決定しました。本事業は100%出資の現地法人であるPT.JFE STEEL GALVANIZING INDONESIAが行います。

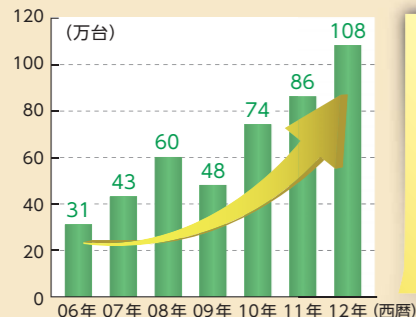
インドネシアは、既に多くの自動車会社が生産・輸出拠点を構える東南アジア第二の自動車生産国であることに加えて、今後も自動車用高級鋼板需要の更なる拡大が見込まれます。JFEスチール(株)は本事業により、既に稼働

中の中国、タイに続きアジア地域の3拠点で自動車用溶融亜鉛めっきラインを展開することになります。

これらを通じ、各国で拡大する自動車会社の現地調達需要および高度化する製品ニーズにお応えするとともに、アジア地域での鉄鋼産業の発展に貢献してまいります。

(1) 設備能力	溶融亜鉛めっき鋼板 40万トン/年
(2) 稼働時期	平成28年3月(予定)
(3) 投資額	約3億米ドル

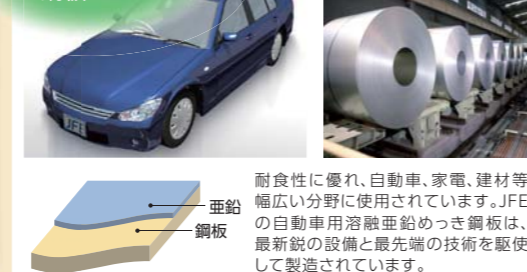
インドネシアの自動車販売台数推移



日系メーカー市場シェアは95%(2012年)

長期的にインドネシアの自動車市場は所得増やインフラ整備の進行などで拡大していくとみられています。

溶融亜鉛めっき鋼板って?



耐食性に優れ、自動車、家電、建材等幅広い分野で使用されています。JFEの自動車用溶融亜鉛めっき鋼板は、最新鋭の設備と最先端の技術を駆使して製造されています。

TOPICS 02

西日本製鉄所(福山地区)第3製鋼工場の転炉増設決定

JFEスチール(株)は、西日本製鉄所(福山地区)第3製鋼工場において転炉1基を増設し、転炉を活用した最新の溶銑予備処理プロセスを導入することを決定しました。溶銑予備処理とは、高炉から出銑された溶銑に含まれる珪(ケイ)素やリンなどの不純物をあらかじめ除去するプロセスです。従来の工程では多量の石灰を添加する必要がありましたが、今回導入する新プロセスでは、新転炉の活用により石灰使用量を大幅に削減することが可能となります。今後も積極的な技術開発により更なる省資源・省エネルギー

化を推進してまいります。

なお、本件は、経済産業省の平成24年度補正予算における「円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業」の補助金による助成を受けております。

(1) 導入設備	①転炉 330トン/チャージ 1基 ②排ガス処理設備
(2) 稼働時期	平成27年1月末(予定)
(3) 投資額	約200億円

TOPICS 03

超大入熱溶接用高強度鋼板が第5回ものづくり日本大賞の経済産業大臣賞を受賞

JFEスチール(株)は「超高層ビルの安全性と経済性向上に貢献する超大入熱溶接用高強度鋼板の開発」の功績により、第5回ものづくり日本大賞の経済産業大臣賞を受賞しました。同賞受賞は、第3回、第4回に続いて3回連続となりました。

ものづくり日本大賞は平成17年に創設され、製造・生産現場の中核を担っている人材のうち、特に優秀と認められる人材等を表彰する制度です。今回の受賞は、超大入熱溶接施工による溶接部の材質劣化を防止することで、超高層ビルの高い耐震安全性の確保と経済性向上の両立を実現した革新的な高強度鋼板の開発が高く評価されたものです。今後ともお客様のご要望に幅広くお応えすべく、付加価値の高い建築建材商品の開発に努めてまいります。



Engineering business エンジニアリング事業

TOPICS 04 津市および倉敷市で太陽光発電事業開始

JFEエンジニアリング(株)は、現在、全国で40ヵ所以上のメガソーラー建設に携わっています。このうち、自社で発電事業を行う、津地区の発電所を8月に、倉敷地区の発電所を10月に稼働しました。

津地区の『雲出ソーラーパワー』は、設備容量3MW(年間想定発電量300万kWh)で、同社の工場遊休地を活用したものです。また、倉敷地区の『鶴の浦ソーラーパワー』

は、設備容量7MW(年間想定発電量650万kWh)で、JFEスチール(株)の社宅跡地に建設したものです。

今後は、7地区で進める自社事業分40MWに加え、他事業者にも技術提案を加速し、平成27年度末までにトータル約300MW分のメガソーラーを手掛け、日本のエネルギー政策に貢献してまいります。

TOPICS 05 『川越火力LNGプラント』および『伊勢湾横断ガスパイプライン』竣工

JFEエンジニアリング(株)は、中京圏の天然ガスインフラを飛躍的に強化する大型プロジェクト2件を同時に竣工しました。川越火力LNGプラント工事は平成21年12月に中部電力(株)より受注したもので、川越LNG基地の貯蔵能力を1.75倍に増強しました。伊勢湾横断ガスパイプライン工事は、平成20年6月に中部電力(株)と東邦ガス(株)より受注したもので、四日市市と知多市の基地間の海底トンネルに発電向けと都市ガス向けの2本の高圧幹線を敷設しました。この結果、5ヵ所のLNG火力発電所の燃料や同地区の都市ガス供給は、格段に安定性を高めています。

JFEエンジニアリング(株)はこれらのプロジェクトに対しエンジニアリング技術を集結して施工しました。発電を一切止めないプラント増強や高速施工法によるパイプライン敷設などで、3ヵ月前倒して完成し、お客様より高い評価をいただいております。



Trading business 商社事業

TOPICS 06 ベトナム・インドネシアにおいて鋼材加工体制を増強

JFE商事(株)は、インドネシアおよびベトナムにおいて、鋼材加工体制を増強いたします。インドネシアでは、鋼材加工拠点である「PT. JFE SHOJI STEEL INDONESIA」(JSSI)において、第二工場を建設し、大型レベラー1基を導入することを決定しました。ベトナムでは、ホーチミン市に続きハイフォン市において、2拠点目となる鋼材加工センター「JFE SHOJI STEEL HAI PHONG CO.,LTD.」(JSHP)を設立することを決定しました。

インドネシアにおいては、自動車メーカー各社が生産能力を増強しており、自動車用鋼板の需要が拡大しています。新工場は、JFEスチール(株)が新たに建設する自動車用溶融亜鉛めっきラインに隣接しており、グループで連携し、お客様のニーズにお応えしてまいります。

ベトナムにおいては現在、電機メーカー等が、ハノイ市を中心としたベトナム北部に拠点新設を進めております。今回加工拠点を新設するハイフォン市は、ハノイ市に近い港湾都市であり、製造業が幅広く進出すると期待されています。これら製造業向け各種鋼板の加工ニーズに対応し、既に工場が稼働している南部に加え、北部において鋼材需要を捕捉してまいります。



インドネシア鋼材加工センター第一工場 (JSSI)

鋼材加工センター拠点





ジャパン マリンユナイテッド(株)

ヘリコプター搭載護衛艦「いずも」命名、進水

ジャパン マリンユナイテッド(株)は8月6日、横浜事業所磯子工場において、防衛省向け平成22年度計画ヘリコプター搭載護衛艦(DDH)の命名・進水式を行いました。

約3,600名が見守る中、「いずも」と命名された本艦は、麻生副総理、江渡防衛副大臣による支鋼切断により、無事、進水しました。

艦名の「いずも」は、現在の島根県の大部分を示す旧国名

に由来しています。

本艦は全長248メートルと、全長197メートルの護衛艦「ひゅうが」(平成21年就航)、「いせ」(平成23年就航)を大きく上回り、国内最大級の護衛艦となります。またヘリコプター5機分の発着艦スポットを備えています。

※ジャパン マリンユナイテッド(株)は、当社と(株)IHIがそれぞれ45.93%を出資する持分法適用会社です。

世界初の洋上サブステーション「ふくしま絆」いよいよ稼働

ジャパン マリンユナイテッド(株)は、同社を含む11社が経済産業省から委託を受けた「福島復興・浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業」第一期工事において、25MVAの能力を持つ変電設備を搭載した浮体式洋上サブステーション「ふくしま絆」1基を製造し、本年7月に据付を完了させました。

第一期工事では、ウインドファームは2MW風力発電設備の「ふくしま未来」と、発電した電力を高圧に変換して陸上まで送るための変電設備である「ふくしま絆」とで構成されています。

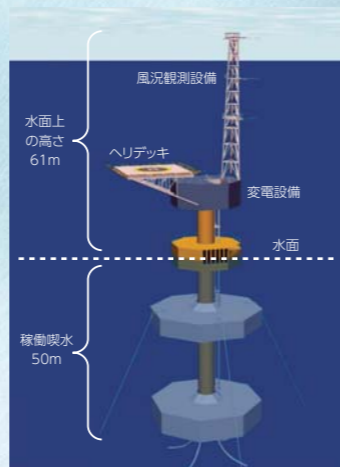
「ふくしま絆」は、水面下に3カ所のふくらみを持たせ、浮体にかかる波の変動圧力を調整して動揺を低減する独自技術を採用しています。

ウインドファーム第一期工事の実証実験では、本年11月から発電を開始する予定です。



<ふくしま絆概要>

- ・浮体要目:水面上の高さ61m、稼働喫水 50m、排水量約13,000トン
- ・主要設備:変電設備、風況等観測設備、緊急時等の人員・物資輸送用ヘリデッキ



会社概要 (平成25年9月30日現在)

会社概要

名称 JFE(ジェイ エフイー)ホールディングス株式会社
(商号) [英文名称: JFE Holdings,Inc.]

本店 〒100-0011
所在地 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
電話 03(3597)4321(代表)

設立 平成14年9月27日

資本金 1,471億円

従業員数 連結:57,407名 単独:41名

株式の現況

発行可能株式総数 2,298,000,000株
発行済株式総数 614,438,399株
株主数 288,840名

株式事務のご案内

決算期 3月31日
定時株主総会 6月に開催
定時株主総会および
剰余金の配当基準日 3月31日
中間配当基準日 9月30日
1単元の株式の数 100株
株主名簿管理人および
特別口座管理機関 〒103-8670
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

経営体制

取締役

代表取締役社長 馬田 一
代表取締役 林田 英治
代表取締役 岡田 伸一
取締役 岸本 純幸
取締役(社外) 芦田 昭充
取締役(社外) 前田 正史

監査役

監査役(常勤) 笹本 前雄
監査役(常勤) 黒川 康
監査役(社外) 伊丹 敬之
監査役(社外) 杉山 清次

執行役員

社長 馬田 一 CEO(最高経営責任者)
副社長 岡田 伸一 総務部、経理部の統括
常務 山村 康 企画部、財務・IR部の担当
常務 寺畑 雅史 経理部の担当
常務 総務部の担当

お問い合わせ先 〒168-8507
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324
特別口座に関する
事務取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほ証券株式会社
本店および全国各支店
公告の方法 電子公告
【アドレス】 <http://www.jfe-holdings.co.jp/>